

IoTを生活の中に活かす「くらしみらいサービス」

快適な暮らしを続けるために

IoTの発展とともに生活の中にも、さまざまなセンサーが浸透してくることを想定し、当社は住宅内でIoTを活用したサービスの検討を進めています。

住宅内にIoT型センサーを設置し、取得したデータをクラウドに蓄積します。これらのデータを分析して、利用者向けには“快適な暮らしを続ける”ためのサービスを、また生活関連企業向けには付加価値を提供する「くらしみらいサービス」の開発に取り組んでいます。

快適な暮らしには、安全が欠かせません。例えば、厚生労働省の調査によると、入浴中の事故死は年間1万9,000人と推定しており、交通事故

の年間死者数の約4倍にも上っています。半数は冬場に集中し、ヒートショックの危険性は大きな問題となっています。住宅内を安全で快適に暮らすために、当社が最初に取り組んだのが、このヒートショック対策です。

ヒートショックは入浴前後の激しい温度変化に起因することから、浴室と脱衣室に温湿度センサーを設置し、利用者が入浴前に浴室と脱衣室の温度を確認できるようにしました。また、長時間入浴している場合は家族に注意を喚起します。これは温湿度の変化を解析することで実現しています。併せて、カビが生えそうな状態を通知するカビ予測機能も搭載しました(図-1)。誰が使っても簡単に設置できる機器構成は、実証実験でも容易に設置できることが確認できました。

「人生100年時代」と言われるようになり、国土交通省では健康で長生きするための住環境へのリフォームを推奨し、断熱リフォームなどへ優遇・補助も行っています。くらしみらいサービスの機能により、冬季の温度データから浴室や脱衣室のリフォーム提案などが可能となり、リフォーム業者に対してもさまざまな付加価値が提供できるものと期待しています。

IoT機器開発とデータサイエンスでビジネス化を促進

当社は生活IoT機器の商品化にも取り組んでいます。生活の中でも手間のかかる家事の1つである洗濯を生活IoTで支援したいという思いから、「乾送ミミダス」のアイデアが生まれました(図-2)。乾送ミミダスは、センサーで洗濯物の乾燥度合いを測定し、Bluetooth経由でスマートフォンアプリが乾くまでにかかる時間や乾いたことを教えてくれます。乾送ミミダスのハードウェアは当社のLSIソリューション事業部が、乾燥度を知らせるアプリケーション開発は技術マーケティング部がそれぞれ担当し連携して開発を行っています。展示会のデモでは、身近なテーマで分かりやすいIoTとして高い評価をいただいています。

生活の中のデータを活用するビジネスには、データ分析によってデータ発生源の特性を知り、分析結果に基づき付加価値を創出する技術であるデータサイエンスが必要となります。当社はこれまでデータサイエンスに積極的に取り組んでおり、データサイエンスの強化によってくらしみらいサービスを発展させていく考えです。

(技術マーケティング部 野原 由記)



図-1 利用者向けアプリの主な機能



図-2 乾送ミミダスと利用イメージ